

コマツナ (アブラナ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
タネまき											収穫

品種

たくさんの品種がありますが、季節を問わずにタネまきがで、家庭菜園向きなのは、つぎのような品種です。「晩性小松菜」「後関晩生小松菜」「卯月小松菜」

栽培ポイント

本来は涼涼な気候（10～20度）でよく育つので春と秋の栽培が適しています。しかし、夏は寒冷紗で遮光したり、冬は寒冷紗やビニールトンネルなどの防寒をすることで、良質のものが周年とれます。

土の適応性は広いので、どんなところでも栽培できますが、短期間に収穫できるだけに土作りは重要です。土作りさえできていれば、放任したままでも収穫できます。そのためには、堆肥を十分にすき込むことです。また、土には、タネまきの2週間前ぐらいに1㎡あたり2握りの苦土石灰をまき、よく耕しておきます。排水の悪い畑は、滞水によって生育が遅れたり、とろけてしまったりするので、高畝にします。

発芽後は遅れないように間引きをします。また、病害虫の被害は少ないのですが、栽培時期によっては、害虫の早期防除もたいせつです。

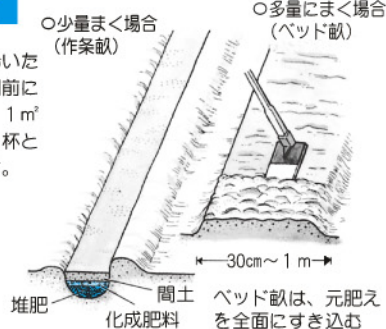
収穫は、草丈が20cm前後のところが適期ですが、それ以前でも間引きながら、どんどん収穫できます。お正月用に使うコマツナは、タネを晩秋（11月中旬ごろ）まきにするとちょうど収穫期になります。

栄養

カロチン、ビタミンC、鉄分、カルシウムなどを多量に含んでいます。

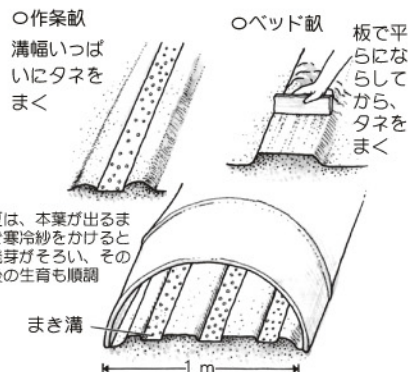
1 畑の準備

苦土石灰を施しておいた畑に、タネまき1週間前に畝を作る。元肥えは、1㎡あたり堆肥をバケツ1杯と化成肥料2握りを施す。



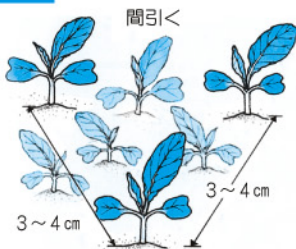
2 タネまき

普通畝もベッド畝も、タネは1.5cmぐらいの間隔で、ばらまきにし、薄く覆土する。乾燥した畑は、タネが流れないようにして、じょうろで水やりをする。



3 間引き

○1回目
本葉1～2枚（発芽後1～2週間）になったら、密生しているところを間引いて株間を3～4cmにする。



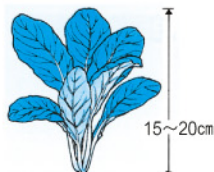
4 最後の間引きと追肥

生育につれて順次間引き、間引き菜とし収穫。草丈7～8cmのころ、最終株間5～6cmに間引く。追肥は、晩秋まきで冬越しする場合は、生育状態をみて、最終間引き後に軽く化成肥料をばらまく。生育の速い夏まきは必要ない。



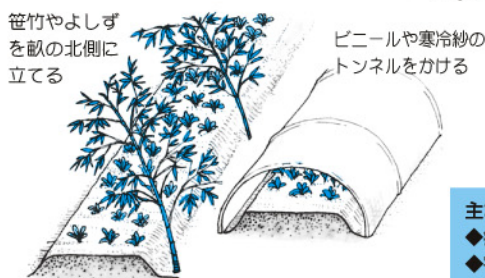
5 収穫

草丈が15～20cmになったら、よく育ったものから順々に抜きとって収穫する。



6 防寒

晩秋にまいたものは、厳寒期（12月ごろ）になったら防寒をすると、正月に質のよいものがとれる。ただし、早い時期に防寒をすると、軟弱になるので注意する。



主な病害虫

- ◆病気 ベと病
- ◆害虫 アオムシ、アブラムシ、ヨトウムシ